

自己評価報告書

平成23年4月13日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320043

研究課題名（和文） 和刻本漢籍再評価のための総合的研究－底本解明を目的として－

研究課題名（英文） Revaluating the Chinese classics printed in Japan

研究代表者

山崎 誠 (YAMASAKI MAKOTO)

国文学研究資料館・研究部・教授

研究者番号：70094696

研究分野：日本漢籍史

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：和刻本・漢籍・底本・明代版本・朝鮮刊本

1. 研究計画の概要

研究目的を「明版を底本とする和刻本の出版に関する研究課題の発見と研究方法の推進」に絞り、これを、a日本漢籍史上からみた和刻本の価値の解明(研究代表者山崎誠担当)、b序跋の集成と分析を通じた日本国内の出版事情・出版環境(出版機構・書林・地方書肆研究を含む)の解明(研究分担者入口敦志担当)、c和刻本出版の東アジアに於ける比較思想史・比較文学史的研究(研究代表者山崎誠担当)、d和刻本をめぐる日中漢越欧の書物交流史の研究(研究分担者陳捷担当)の四つの視点から、主題である和刻本の底本の解明へと収斂させたいと考える。具体的には、以下の研究対象と研究目的を掲げる。

(1) 16～17世紀の輸入幼学(蒙学)書の研究(山崎) 中日韓越の下層社会に於ける蒙学書の諸相とその役割。

(2) 鎌倉・室町以後における中国・朝鮮刊本の将来と受容(陳) イエズス会宣教師との比較を視座とした哲学書の出版を中心に。

(3) 図入り版本の受容と変容(入口) 『帝鑑図説』など図入り本の中日韓の諸本の挿絵の図像学的、書誌学的比較研究

2. 研究の進捗状況

和刻本の底本の解明へ向けての四つの研究課題、それぞれに進展することができた。

研究代表者は、16～17世紀の輸入幼学(蒙学)書の研究(山崎)「中日韓越の下層社会に於ける蒙学書の諸相とその役割」を進め、「明心宝鑑」について、その成果を一部公表した。鎌倉・室町以後における中国・朝鮮刊本の将来と受容(陳)「イエズス会宣教師との比較を視座とした哲学書の出版を中心に」についても資料調査を確実に進展させ、図入り版本の受容と変容(入口)『帝鑑図説』など図入り本の中日韓の諸本の挿絵の図像学的、書誌学的比較研究」については著書に向けて展開しつつある。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 三つの研究対象について、平成22年3月に作成した国文学研究資料館共同研究プロジェクト編『和刻本(五山版・近世初期刊本)の研究』に本研究の中間報告とし

て研究成果を 発表した。現在、最終報告書『和漢之間』（仮称）の準備を実施し、確実に進展している。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 三つの具体的研究対象に即して、各和刻本漢籍の底本である明版はどのようなテキストであるのか、異本が存在する場合、そのテキストの系譜はどのようなものなのか、また、それらのテキストは現存するかどうかなど徹底したテキストの調査を通して、和刻本漢籍の文献学上の価値・特徴を明らかにするための情報収集と分析を行う。

(2) 出版された和刻本漢籍が日本文化に与えた影響を、具体的な事例を通して緻密に分析する。同様に韓半島や越南での同類漢籍受容史の徹底調査と比較を行いたい。同時に各国の研究情報の徹底的な追尾と集約を図る。

(3) 機会を捉えて共同研究会を開き、個別研究の知識を深め、研究方法について全体討議と相互批評を行う。更に本研究計画は重要な柱として、中国や韓国、ベトナムの古典籍研究に資すると思われる我が国の和刻本及び漢籍の情報(画像や所在情報)についても、積極的に提供して、国文学研究資料館として互恵的研究態勢の構築に努めたいと考えている。

(4) 国際フィールド調査と情報集積を北京大学図書館、中国国家中央図書館、上海図書館、上海復旦大学図書館、南京大学図書館の和刻本朝本・越南本調査により、和刻本と明版と諸国版との関係性について、国際集会で意見交換を行い、問題点について討論する。

(5) 国際協力による明版の書誌調査法の確立とデータの格納法の改善に於いて、研究協力者の参加のもとに、国際共同フィールド調査を踏まえた(一昨年は沖縄、昨年は北京の調査を実施したが、今年度も国内外の調査を予定している)書誌調査のためのマニュアルと、目録化のためのマニュアル標準目録規則を完成

する。

(6) 研究成果について成果報告書『和漢之間』（仮称）を作成する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

①入口敦志、「飾りとしての文学—肖像画における文学の可視化—」、『文学・語学』、119号、2011/3、pp1~19、査読有

②陳捷、「被遺忘的日本人八戸弘光-19世紀60年代中日民間往来の一例」、『国際漢学研究通訊』、-第2期、(2010.10)、pp219~236、査読無

③山崎誠、「唐絵屏風の源流」、『国文学研究資料館紀要文学 研究篇』、36号、2010、pp1~28、査読無

④入口敦志、「『帝鑑図説』の読まれ方:『帝鑑評』を中心に」、『成城文芸』、209号、2009、pp60~81、査読無

⑤陳捷、「一八七〇~八〇における中国書画家の日本遊歴について」、『中国』、24号、2009、pp161~178、査読有

[図書] (計 1 件)

①山崎誠、陳捷、入口敦志、国文学研究資料館編、『和刻本（五山版・近世初期刊本）の研究』、2010年3月刊、478頁